

高松市の教育に関するアンケート調査報告書 《概要版》

令和5年5月

高松市教育委員会



1. 調査結果のポイント

(1) 学校運営について

- 「勉強が面白いか」の質問について、小学生は**平成26年度調査から大きな変化はなく**、中学生は面白いと思う割合が約**1割増加**している。
- 「学校の授業の理解度」の質問については、**8割以上が「分かる（理解している）」**と回答しており、コロナ禍の影響が懸念されたが、適切な学習環境が維持できているといえる。

(2) 一人一台端末について

- 一人一台端末を使った授業を「**楽しいと感じている児童生徒**」及び「**子どもが意欲的に授業に取り組んでいると感じている保護者**」が、それぞれ**7割**を超えており、評価が高い。

(3) 新型コロナウイルス感染症について

- 全ての調査対象で、運動やコミュニケーションの不足に不安を感じている**という結果になった。

(4) 家庭・地域での教育（生活）について

- 家庭での時間の使い方について、前回調査と比較し、**スマートフォンやタブレット等の使用が増えている**。
- 地域とともにある学校とするために、**外部の人を学校に招いたり、学校支援ボランティアの受入れが大切だ**と考えられている。

(5) 本市に望む今後の教育施策について

- 「**分かる**」と実感できる授業と、不登校対策などの**多様なニーズへの対応**が求められている。
- 大人になってからも高松に住み続けたいと思う回答は約**6割**であった。
- 表現力や対話する力の育成**や**子どもたちの道徳心や規範意識の醸成**などが求められている。

2. 調査概要

■ 調査の目的

児童生徒の学習意欲、将来に対する意識、家庭や地域における教育力などの現状把握、平成26年調査との経年比較を行うことで、本市の教育施策全般に、調査で得た課題等を生かすために実施

■ 調査内容

- (1) 学校教育(生活)について
- (2) 家庭や地域での教育(生活)について
- (3) 子どもの教育(課題等)、将来に対する意識について
- (4) 本市の教育施策(必要な取組等)について

■ 調査期間

令和4年10月28日～令和4年11月30日

■ 回収率

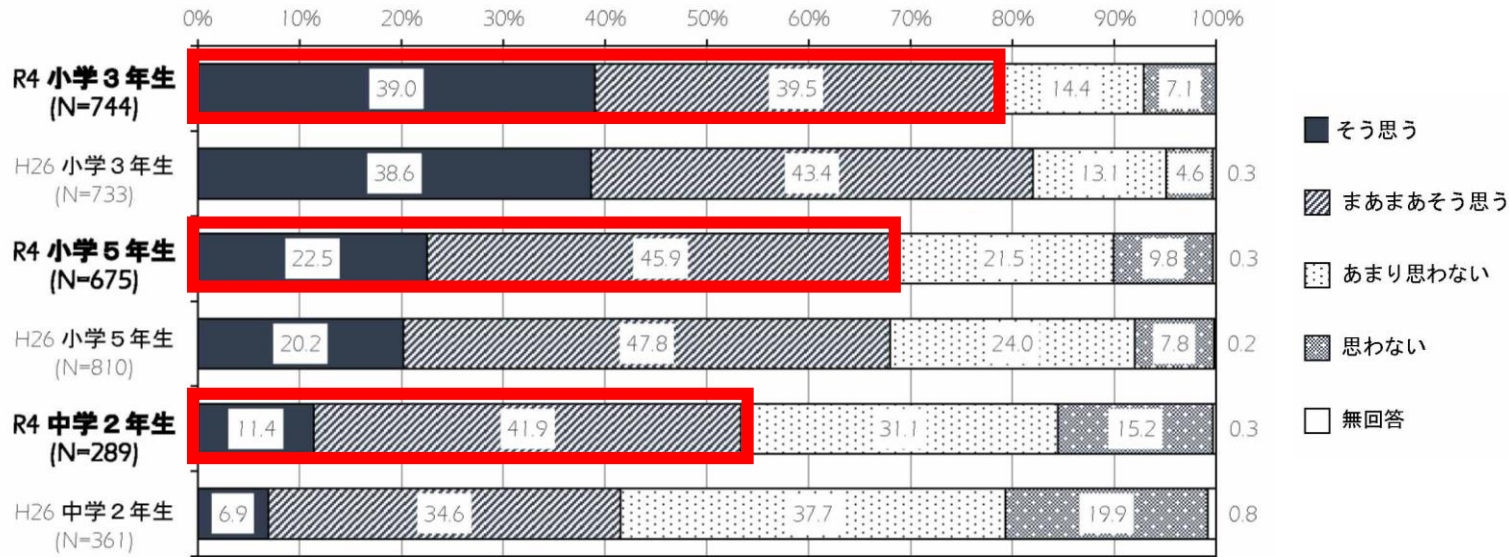
80.6% ※前回回収率(87.4%)を下回った要因は、保護者・一般市民調査において、回答方法にWEB回答を追加したためと考えられる。

■ 調査対象・調査方法・回収結果

調査種別	調査対象	配布数	回収数	回収率	前回回収率
児童生徒	小学校	1,469	1,419	96.6%	99.5%
	中学校	323	289	86.5%	96.5%
保護者	小学校	1,469	1,287	87.6%	95.3%
	中学校	319	250	78.4%	87.6%
	幼稚園・こども園	172	162	94.2%	95.9%
教員	小学校	182	182	100%	98.5%
	中学校	69	69	100%	98.1%
	幼稚園・こども園	20	20	100%	100%
一般市民		1,000	372	37.2%	47.7%
全体		5,023	4,050	80.6%	87.4%

3. 調査結果 (1) 学校運営について

◆勉強が面白いですか【児童生徒調査、P.3】



■「そう思う」・「まあまあそう思う」

小学3年生・・・**78.5%**

小学5年生・・・**68.4%**

中学2年生・・・**53.3%**



前回調査との比較

小学3・5年生・・・**大きな変化なし**

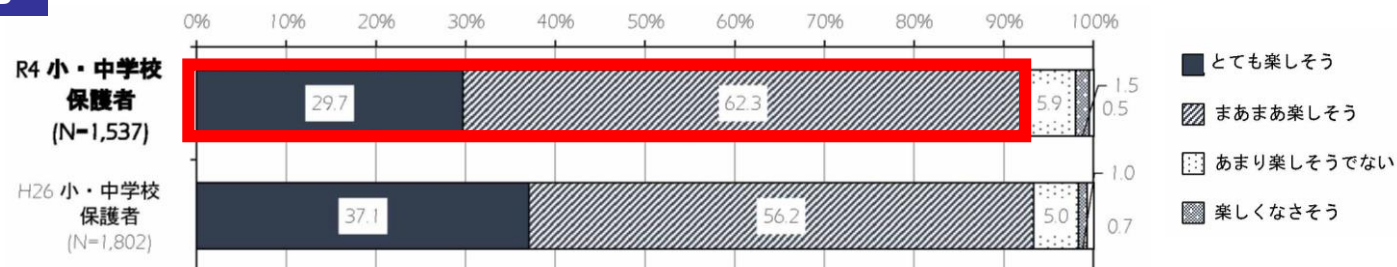
中学2年生

・・・「そう思う」・「まあまあそう思う」

が11.8%増加

参考

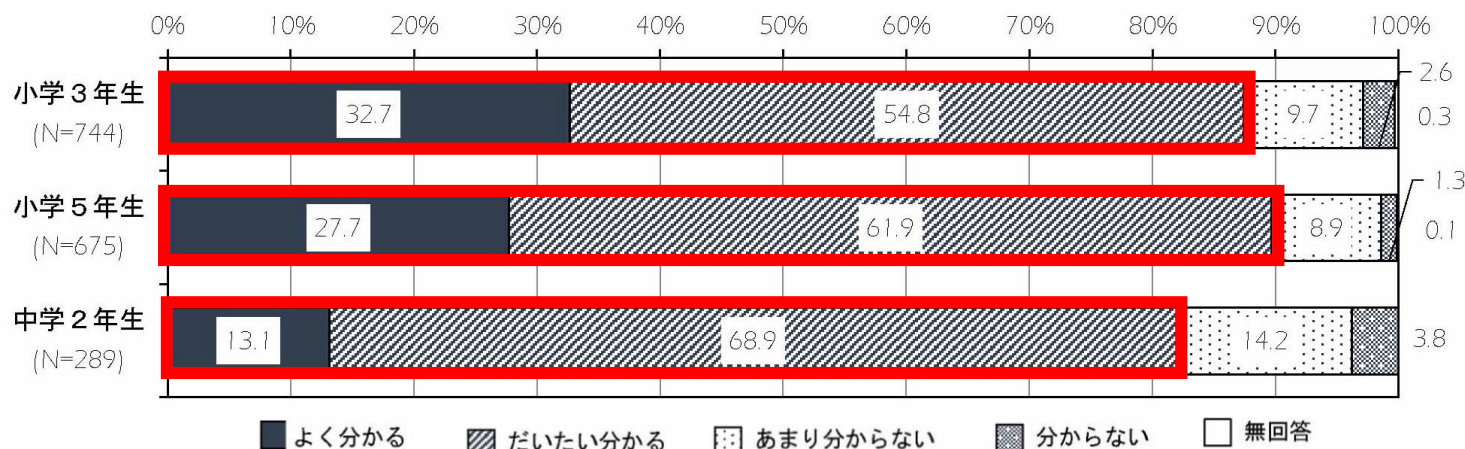
「あなたのお子さんは、学校に楽しく通っていますか」【P.16】



「とても楽しそう」と「まあまあ楽しそう」を合わせると、90%を超えています。

3. 調査結果 (1) 学校運営について

◆あなたは、学校の授業がどのくらい分かりますか【児童生徒調査、P.5】



■「よく分かる」・「だいたい分かる」

小学3年生・・・**87.5%**

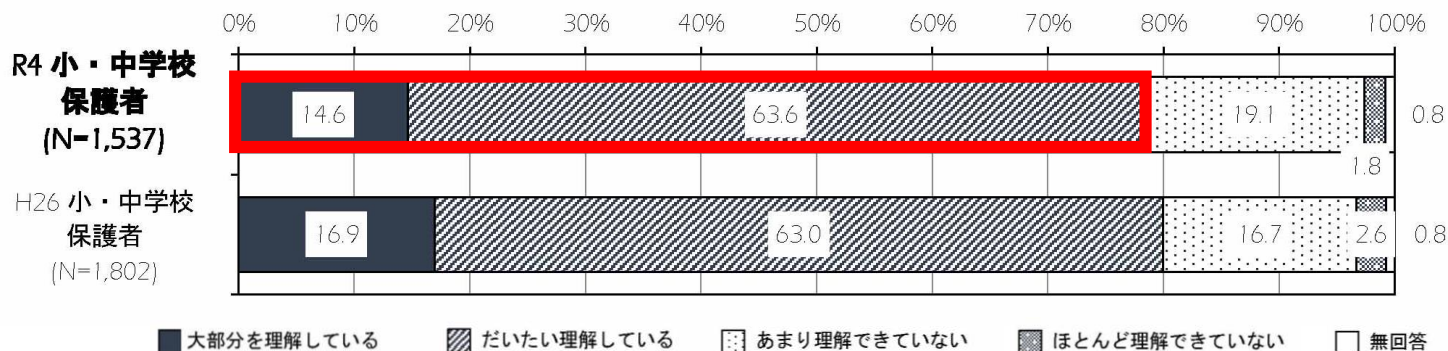
小学5年生・・・**89.6%**

中学2年生・・・**82.0%**



全ての学年で、**80%以上**が「分かる」と回答しています。

◆あなたのお子さんが、学習内容をどのくらい理解していると思いますか【保護者調査、P.16】



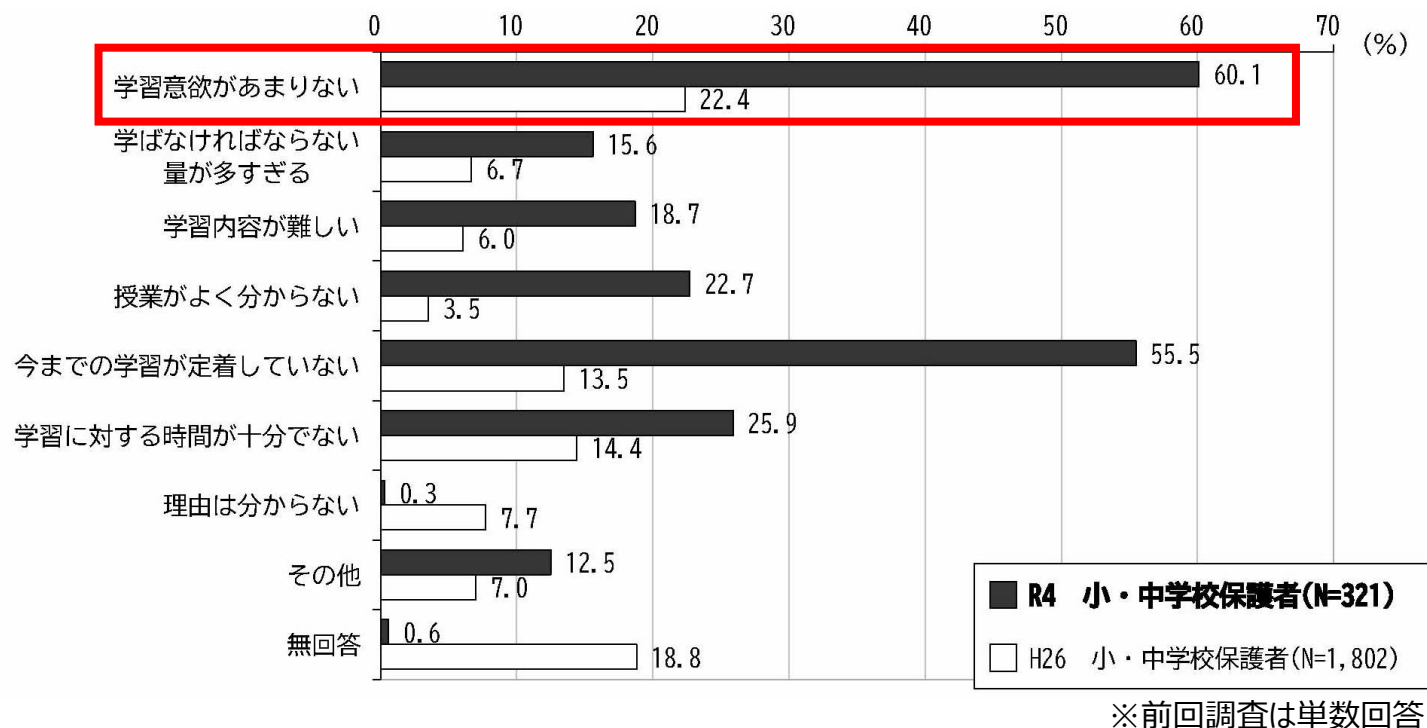
■ 前回調査と比較・・・**大きな変化なし**



約80%の保護者が「理解している」と感じています。

3. 調査結果 (1) 学校運営について

◆理解が十分でない理由は何だと思いますか【保護者調査、P.17】



■ 学習内容を「あまり理解できていない」・「ほとんど理解できていない」と回答した保護者が考える理由の第1位には、前回調査と同じく「**学習意欲があまりない**」があげられています。

■ 保護者が学校に対して望むこととして、「**分かりやすい授業を工夫すること**」が上位に位置しています。

参考

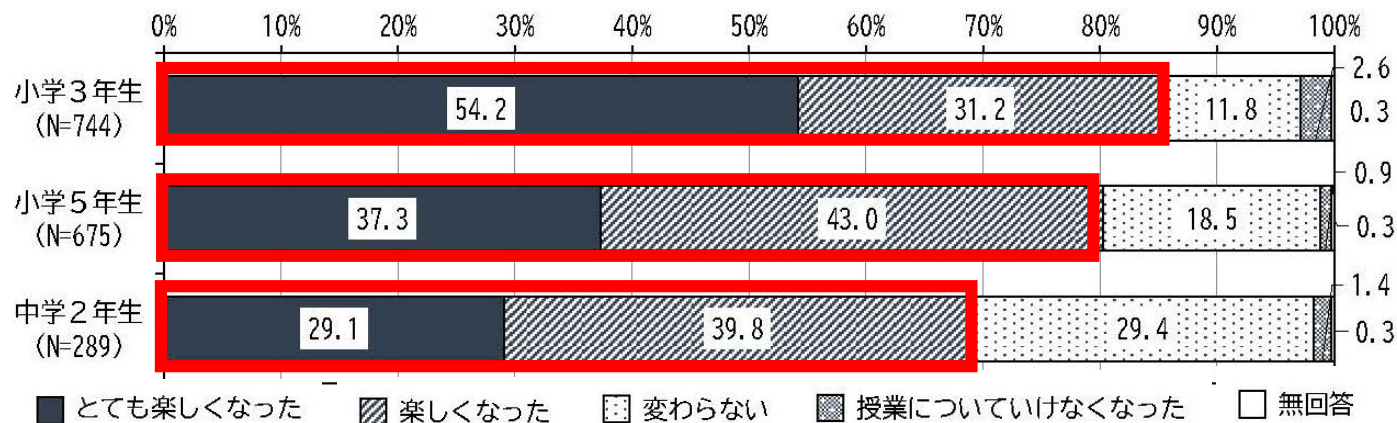
保護者調査「学校に対してどのようなことを望みますか」【P.18】

- 第1位 「教育に対する責任感や愛情を持って接すること」 (49.2%)
- 第2位 「**分かりやすい授業を工夫すること**」 (40.3%)
- 第3位 「子どもに公平に接すること」 (32.7%)

3. 調査結果 (2) 一人一台端末の導入について

◆一人一台端末（タブレット）を使った授業について、これまでの授業と比べてどのように

感じていますか【P.7】



■「とても楽しかった」・「楽しかった」

小学3年生・・・**85.4%**

小学5年生・・・**80.3%**

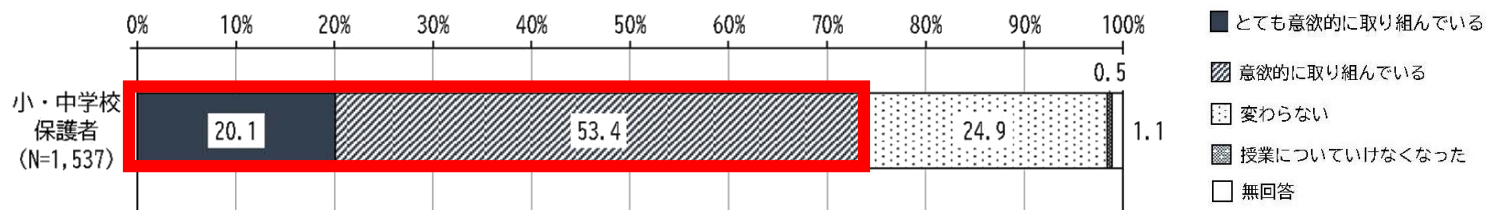
中学2年生・・・**68.9%**



■平均して、7割を超えて「楽しかった」と回答しています。

参考

「お子さんは、一人一台端末を使った授業について意欲的に取り組んでいますか」【P.17】



「意欲的に取り組んでいる」を選択した割合が7割を超えています。

3. 調査結果 (3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

◆新型コロナウイルス感染症の流行に関して、教育について不安に感じていること【P.12、23、38、54】

調査種別	第1位	第2位	第3位
小学5年生	運動不足・体力の低下などに関すること (35.1%)	学校の行事に関する こと (30.7%)	学校での感染症対 策に関すること (27.0%)
中学2年生	学校の行事に関する こと (43.6%)	運動不足・体力の低下などに関すること (26.3%)	部活動に関する こと (24.2%)
小・中学校 保護者	コミュニケーション不足に関すること (42.0%)	運動不足・体力の低下などに関すること (37.4%)	学校の行事に関する こと (36.9%)
小・中学校 教員	対面によるコミュニケーション不足に関すること (62.5%)	生活習慣の乱れに 関すること (36.3%)	運動不足・体力の低下など健康保持に関すること (35.5%)
一般市民	対面によるコミュニケーション不足に関すること (52.4%)	運動不足・体力の低下など健康保持に関すること (43.0%)	心のケアに関する こと (27.7%)

■「運動不足・体力の低下」、「コミュニケーション不足」などについて不安を感じています。

■「学習（学習保障）に関すること」
児童生徒…小学5年生 **20.7%**
 中学2年生 **16.6%**

保護者…34.8%

教員…34.7%

一般市民…**19.1%**

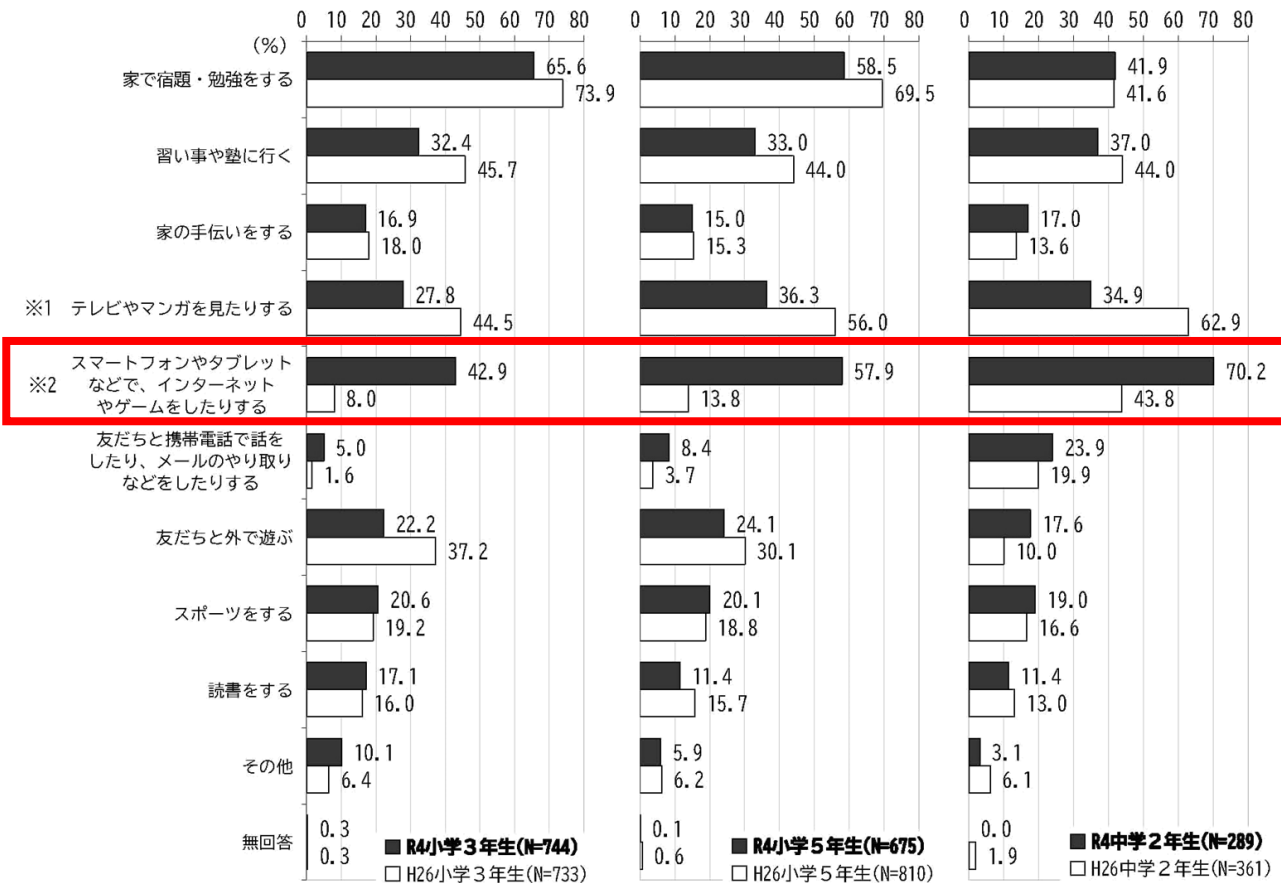


コロナ禍によって保護者、教員が感じる「学習に関する不安」は、児童生徒、一般市民よりも高くなっています。

※調査種別ごとの回答項目の上位3位までを記載（「特になし、分からない」を除く）。

3. 調査結果 (4) 家庭・地域での教育（生活）について

(1) 学校から帰ったら、どのようなことに使う時間が多いですか【P.9】



- スマートフォンやタブレット等の使用について、平成26年度調査と比較して、大幅に増加しています。
- 保護者・一般市民は、家庭において、家族の団らん・体験活動や、携帯電話・SNS等の正しい使い方への理解を深める取組が必要と考えています。

参考

「家庭教育についてどのような取組が必要だと思いますか」【P.19、49】

調査種別	第1位	第2位	第3位
小・中学校保護者	家族の団らんの場をつくる	携帯電話・スマートフォンやSNSの正しい使い方への理解を深める	子どもと保護者が一緒に様々な体験ができる機会を増やす
一般市民	携帯電話・スマートフォンやSNSの正しい使い方への理解を深める	子どもと保護者が一緒に様々な体験ができる機会を増やす	家族の団らんの場をつくる

※1 前回H27：「テレビやマンガを見たり、ゲームをしたりする」
 ※2 前回H27：「インターネット（携帯電話・スマートフォンを含む）をする」
 <前回と項目内容が異なるため、割合も大きく違っている>

3. 調査結果 (4) 家庭・地域での教育（生活）について

(2) 地域とともにある学校にするために、あなたは何が大切だと思いますか【P.20、35、48】

調査種別	第1位	第2位	第3位
小・中学校保護者	地域の施設などを利用した校外学習を進める (41.4%)	ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く (39.6%)	登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる (28.8%)
小・中学校教員	学校だよりやホームページなどにより、学校や子どもの様子を積極的に公開する (53.0%)	登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる (48.2%)	ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く (40.2%)
一般市民	ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く (40.1%)	登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる (38.4%)	教育や子どもの問題について、学校・家庭・地域が話し合う場を設定する (33.1%)

- 外部の人を学校に招いたり、学校支援ボランティアの受け入れについて大切だと思うという回答が上位に位置しています。
- 児童生徒及び一般市民調査において、「交流したいが、交流していない」の割合が一定数ありました。

参考

普段、あなたは地域の人たち（子ども）とどのように接していますか【P.10、50】

調査項目	児童生徒調査		一般市民調査
	小学生	中学生	
交流したいが、交流していない	14.8%	17.0%	24.7%

※調査種別ごとの回答項目の上位3位までを記載。

3. 調査結果 (5) 高松市に期待する教育施策について

◆今後、高松市が力を入れて行う必要がある教育に関する主な施策について【P.22、37、53】

調査種別	第1位	第2位	第3位
小・中学校 保護者	子どもたちが「分かる」と実感できる授業の実施 (39.9%)	コンピューターなどのICTを活用した授業の推進 (26.2%)	不登校の子どもへの支援や暴力行為・いじめ等の問題行動の未然防止・早期対応 (23.9%)
小・中学校 教員	子どもたちが「分かる」と実感できる授業の実施 (46.6%)	不登校の子どもへの支援や暴力行為・いじめ等の問題行動の未然防止・早期対応 (33.5%)	特別支援教育の充実 (33.1%)
一般市民	不登校の子どもへの支援や暴力行為・いじめ等の問題行動の未然防止・早期対応 (35.5%)	子どもたちが「分かる」と実感できる授業の実施 (27.4%)	人権を尊重し多様性を認め合う、一人一人を大切にしたい教育の推進 (25.5%)

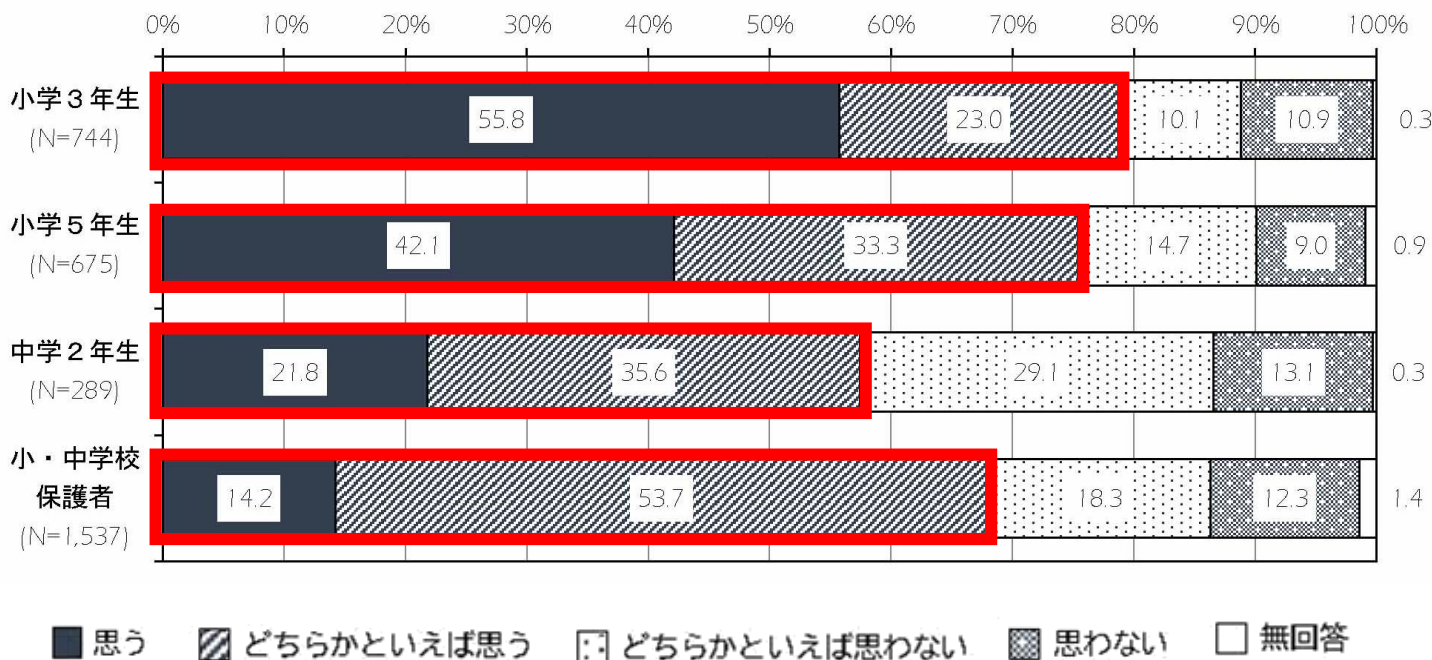
■「子どもたちが『分かる』と実感できる授業の実施」と、「不登校の子どもへの支援や暴力行為・いじめ等の問題行動の未然防止・早期対応」は、各調査対象において、上位に位置しています。

■多様なニーズに対応する取組として、「特別支援教育の充実」や「人権を尊重し、多様性を認め合う、一人一人を大切にしたい教育の推進」のニーズが上位に入っています。

※調査種別ごとの回答項目の上位3位までを記載。

3. 調査結果 (5) 高松市に期待する教育施策について

◆大人になってからも高松市や今住んでいる地域に住み続けたい（住み続けてほしい）と 思いますか【P.11、18】



■「思う」・「どちらかといえば思う」

小学3年生・・・**78.8%**

小学5年生・・・**75.4%**

中学2年生・・・**57.4%**

保護者・・・**67.9%**



児童生徒のうち、「高松に住み続けたいと思う」という回答は、学年が上がるにつれて、割合が低くなっていますが、全体では約60%、また、保護者が「住み続けてもらいたいと思う」という回答は、約70%になっています。

3. 調査結果 (5) 高松市に期待する教育施策について

◆これからの子どもたちに特に必要な資質・能力について【保護者調査、P.14】



■これからの子どもたちに必要な資質・能力として、保護者は「**自分の思いを表現したり、人と対話したりする力**」が必要と、また、教員・一般市民も高い割合で必要と考えています。

参考

「これからの子どもたちに特に必要な資質・能力について」【P.31、45】

調査項目	小・中学校教員	一般市民
基礎的・基本的な学力	41.0%	39.0%
自分の思いを表現したり、人と対話したりする力	38.6%	35.5%
社会の変化に対応し、自ら学び続ける力	29.9%	27.7%

3. 調査結果 (5) 高松市に期待する教育施策について

◆子どもたちや教育について課題と感じていることについて【P.15、32、46】

調査種別	第1位	第2位	第3位
小・中学校 保護者	子どもたちの道徳心や規範意識 (41.4%)	子どもたちの問題行動やいじめ (39.9%)	子どもたちの学力 (34.6%)
小・中学校 教員	子どもたちの道徳心や規範意識 (44.6%)	家庭の教育力 (40.6%)	・子どもたちの学力 (40.2%) ・家庭環境などによる教育較差 (40.2%)
一般市民	子どもたちの問題行動やいじめ (50.3%)	子どもたちの道徳心や規範意識 (45.4%)	子どもたちの基本的な生活習慣 (32.3%)

※調査種別ごとの回答項目の上位3位までを記載。

■「子どもたちの道徳心や規範意識」について、課題と感じられています。

■一方、学校・家庭・地域の連携についての課題意識は全ての調査対象で低い結果となりました。



■学校・家庭・地域の連携につながる取組等の充実に向けた働きかけが、今後、重要になると考えられます。

参考

「子どもたちや教育について課題と感じていることについて」【P.15、32、46】

調査項目	小・中学校 保護者	小・中学校 教員	一般市民
学校・家庭・地域の連携	13.3%	12.0%	22.8%

4. 調査結果のまとめ

以下の結果を踏まえ、次期教育振興基本計画の策定に取り組みます。

項目	まとめ
学校運営について	<ul style="list-style-type: none">● コロナ禍の影響が懸念されたが、平成26年度調査と比べて大きな変化がない結果となり、適切な学習環境が維持できたものと考えられます。● 分かりやすい授業が望まれており、今後も引き続き、ICT機器の活用など、児童生徒の学習意欲が向上するような工夫を行っていく必要があると考えられます。
一人一台端末について	<ul style="list-style-type: none">● 一人一台端末を使った授業により、授業を楽しんでいる児童生徒及び児童生徒が意欲的に授業に取り組んでいると感じている保護者が7割を超えていることから、これまでの取組が評価されており、引き続き、ICTを活用した教育の推進が求められていると考えられます。
新型コロナウイルス感染症について	<ul style="list-style-type: none">● 全ての調査対象が、運動やコミュニケーションの不足について不安を感じる結果であり、今後は、学習環境に応じて、体力の向上やコミュニケーションが図れるような対面活動が求められていると考えられます。
家庭・地域での教育（生活）について	<ul style="list-style-type: none">● 家庭での時間の使い方として、スマートフォンやタブレット等の使用が平成26年度調査と比較して、大幅に増加しており、また、携帯電話やSNS等の正しい使い方に関する家庭教育が必要とされています。● 地域とともにある学校とするためには、外部の人を学校に招くことや、学校支援ボランティアの受け入れなどが大切です。
本市に望む今後の教育施策について	<ul style="list-style-type: none">● 子どもたちが「分かる」と実感できる授業への工夫と、不登校対策や特別支援教育等の多様な教育ニーズへの対応が求められています。● 高松に住み続けたいと思う回答が約6割であることから、今後の取組内容を検討する必要があると思われます。● 表現力や対話する力の育成や、道徳心や規範意識の醸成などのニーズが高まっています。